

国指定史跡
虎塚古墳

虎塚古墳周辺図



ひたちなか市教育委員会

このパンフレットは再生紙を使用しています。



このパンフレットは大豆インキを使用しています。



虎塚古墳全景

古墳の概略

型 前方後円墳

- 全 長 56.5m
- 後円部径 32.5m
高さ 5.5m
- 前方部幅 38.5m
高さ 5.0m

造られた時期 7世紀前半頃

昭和48年夏、勝田市史編さん事業として第一次調査を行い、同年9月石室を発見し、昭和49年1月に、国の史跡指定をうけました。

壁画の一般公開

貴重な彩色壁画の一般公開を、春と秋(各10日間以内)に実施しています。詳しい公開日程・時間等については、下記にお問い合わせ下さい。

◇教育委員会総務課文化振興課
TEL 029 (273) 0111

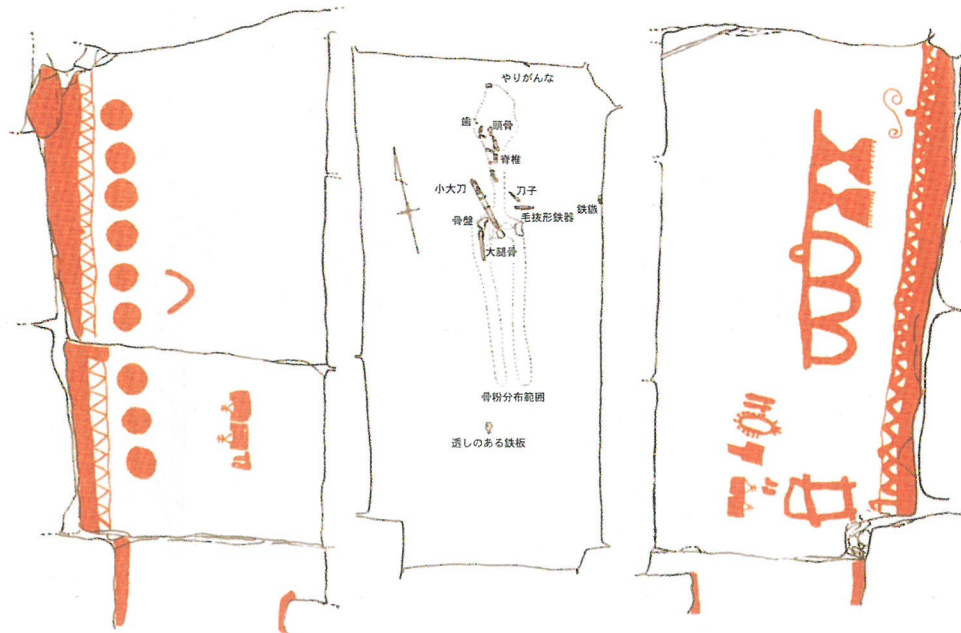
◇埋蔵文化財調査センター
TEL 029 (276) 8311

副葬品

石室内部からは、成人男子と思われる遺骸が一体と、全長38cmほどの漆塗小大刀や刀子・毛抜形鉄製品・やりがんな・鉄鏃などが発見されました。

また、石室前庭部の礫群中から、鉄釧や鉄製銚・鉄製環などが出土しました。

これらの遺物は、市の指定文化財の指定を受け、現在、埋蔵文化財調査センターに展示されています。



出土遺物

古墳内部

横穴式石室

玄室の長さ	3.0m
奥壁の幅	1.5m
高さ(中央部)	1.4m

奥壁・東壁は1枚、西壁は2枚、天井は3枚、床は7枚の凝灰岩で作られています。

石室の入口には、高さ1.18m、上部幅0.9m、下部幅1.2mの扉石がありました。また、石室入口には長さ1.3m、幅1.2mの羨道部があり、さらに幅1mの墓道によって外側の周堀に通じていました。

壁画

玄門入口には、ベンガラ（酸化第二鉄）で連続三角文が赤く描かれています。

玄室は、ほぼ全面に白色粘土を下塗りした上に、ベンガラで文様が描かれています。

一玄室内文様一

奥壁	三角文・環状文・武具(槍・大刀)・武具(靴・鞆)
東壁	三角文・渦文・鞆・楯・首飾り・鏡
西壁	三角文・円文・舟と馬具らしき図文
天井	ベンガラで赤く彩色
床面	白色粘土の上にベンガラで彩色